



# 園だより

第3号  
令和元年5月31日  
駿河台大学第一幼稚園  
園長 田所 恒子

## 行動し・感じ・考え・そして学ぶ

いつの間にか色付き始めたアジサイの花に、梅雨の季節が近いことを気付かされます。気温も高く、天候の良い入梅前のこの時期だからこそ、感触を味わいながら、先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさや、試したり工夫したりする面白さを体験できる水、砂、土を使った遊びを十分に楽しませたいものです。自分から行動し、感じ、考え、そしてたくさんの学びができるように教職員も指導の在り方を工夫・改善しています。

年少組の水遊びでは、保育室の前に水をはったタライや小さめのプールを設置し、“やってみよう”という子どもたちの気持ちが満足できるように多めのプラスチック容器や遊具を用意しました。先生や友達と一緒にタライやプールを囲んで行う水遊びは楽しく、つい勢いから水を掛けてしまうこともあります。怒ったり泣いたりする友達の姿や担任の対応から、相手の気持ちに気付く体験をしていきます。入園当初は、誰だか分からず、近寄られただけでも恐かった“知らない子”であったのに、同じ場所で一緒に遊んだり、生活したりする中で少しずつ同じクラスの仲間ということが分かってきました。名前呼び合ったり、「ごめんね」「いいよ」と言い合ったりしながら、また遊び出すことも出来るようになりました。

年中・年長組は、設置2年目となった「泥場」の泥遊びを楽しんでいます。泥に触れるだけでなく、泥団子作りを楽しむ姿が見られ、子どもたちの間で小さなブームとなっています。教員たちもどうしたら“光る泥団子”ができるのか、泥団子経験者の蓬田副園長と共に試行錯誤しています。子どもたちが「泥場」での遊びをより楽しめるように、簡易的な水道を設置しようと考えています。

園内だけでなく園外保育でも、よりダイナミックな水遊びを楽しめるようにと目的地や遊び方も工夫・改善しています。先日、年長組は府中郷土の森公園の水遊びの池で思う存分水遊びを楽しんできました。この園外保育でいくつもの子どもたちの成長を感じました。一つは、水遊びに向けて脱いだ靴が、きちんとそろえられていたことです。年長児は、5月11日に、茶道裏千家教授 青木宗久先生にご指導いただきお茶会を行いました。その折の「脱いだ靴を改めてそろえる」という指導が身についたようです。さらに、帰りのバスの中で、私の席のまわりでは、水の中でビーチサンダルが脱げてしまい大変だったことが話題となりました。何も履いていないと池の底がヌルヌルして気持ちが悪いと言うことで、「クロックスだといいいんだよ。Aちゃんは脱げなかったよ」「でも、かかとの所に掛けてないと脱げちゃうんだよね」「Bちゃんのビーチサンダルはかかとの所に掛かるように紐が付いていて脱げなかった」「ビーチサンダルでも大丈夫だよ。足の指をこうやって(手の指曲げながら) (鼻緒を) 掴むようにしたら脱げなかったと、様々な発見したこと考えたことを言い合っていました。行動し、感じ、考え、そして学ぶ。子どもたちはとても素敵な体験をしていました。年中組の東京競馬場への園外保育も素敵な体験ができることでしょう。

6月には、保育参観や個人面談があります。お子様の成長を保護者の皆様と担任が共に確認し、お子様の健やかな成長に繋げていきたいと思っております。



年中・年長児は、夢中になって泥団子作りを楽しんでいます。ベトベトと手に付いていた泥も丸めているうちになくなりました。

光る泥団子に向けて、泥団子に磨きを掛けている子どももいます。



年少児はプールを囲んで、開放感や水の心地よさを感じながら友達と一緒に遊ぶ中で、“気に入ったお友達”ができてきました。



年長児が作ったお軸や季節の花、赤い毛氈によって、いつもの遊戯室がすてきな“お茶室”になりました。初めてのお抹茶を緊張していただいていたました。



年長児は、府中郷土の森へ園外保育に行き、水遊びの池で思う存分楽しみました。

『はしらない』って(看板に)書いてあったでしょ?だから走らなかったよ』という声。“安全に遊ぶ”という気持ちも育っています。